

ハノイ大学日本語教育開始45周年及び日本語学部設置25周年記念式典 挨拶文（10月18日（木） 於：ハノイ大学）

皆様、こんにちは。Xin chao cac quy vi!

●「日本語教育開始45周年並びに日本語学部設置25周年」に心からお祝いを申し上げますとともに、日本政府を代表し、一言御挨拶を申し上げます。

●45年前の1973年、日本とベトナム間に外交関係が樹立された年に、ハノイ大学での日本語教育が開始しました。国交樹立後、本格的な日越関係改善は、「冷戦終了」を待つ必要がありました。

●日本の対越ODA再開は1992年、ハノイ大学日本語学部設置は1993年です。また、ベトナムのアセアン加盟、米国との国交樹立は1995年です。それから、わずか四半世紀の間に、ベトナムは飛躍的に発展し、国際的な存在感も大きくなりました。日越関係も、「広範な戦略的パートナーシップ」の下、すべての分野で緊密化しています。

●ハノイ大学は、これまで約2,500名以上の日本語人材を輩出し、卒業生は両国の架け橋として各方面で活躍されています。ハノイ大学の歴代の先生方のご尽力に、心から感謝を申し上げます。

●ここ数年、両国の緊密化は特に顕著です。例えば、経済分野で言えば、日本企業のベトナムへの関心は特に高まっており、投資件数、進出企業数は着実に増加しています。ベトナムの日本商工会議所に加盟する日本企業数は、今年2月、タイの商工会議所を抜いて東南アジアで1位です。また、現在、日本は、少子高齢化・深刻な労働力不足に直面していますが、今年6月末で約29万人のベトナム人が日本に居住し、日本を支えて頂いています。

●ベトナムの日本語教育も大きく変化しています。現在、大学に加え、小学校・中学校・高校の普通教育で、約1万8千人が日本語を学習しています。また、国際交流基金日本語能力試験のベトナムの受験者数（2017年）は約7万千人となり東南アジアで一位、世界では中国・台湾に次いで3位となりました。

●日本語教育は日越関係発展の牽引役です。今月8日、東京で行われた「日越首脳会談」では、多くのテーマがとりあげられましたが、日本語教師の育成を含む日本語教育の一層の強化が合意されました。

●首脳会談での合意をも踏まえ、ハノイ大学には、次の3つの観点から、ベトナムの日本語教育を更に主導いただきたいと思えます。

●一つは、「ベトナム日本語・日本語教育学会」の推進です。

昨年9月、ハノイ大学は、ベトナム全土の日本語教育を担う大学

とともに、全国組織の同学会を設立されました。ベトナムの先生方が課題を共有し、世界の日本語研究者と教授法等を研究する動きは、日本語教育の質の向上に資するものです。ハノイ大学には、同学会の牽引役を引き続き担っていただくことを期待致します。

●二つ目は、日本語教師育成に関連した課題です。

昨年6月、安倍総理大臣は「アジアの3か国を選び、日本語教師育成強化を行う」と公表し、ベトナムは育成強化拠点として選ばれました。現在、国際交流基金が具体策を検討中ですが、日本語教師の「質」と「量」が充実できるよう、協力をお願い致します。

●三つ目は、介護・看護・農業・IT等の専門分野の日本語を教える人材が不足していることです。

ハノイ大学では、既に日本企業と連携して日本式経営手法やインターンシップを取り入れた教育が行われています。今後は、日越間で需要が高まるこれら新分野においても、質の高い日本語教育が行えるよう研究を進めていただく事を期待致します。

●最後に、皆様の御健勝、ハノイ大学における日本語教育の進展、日越関係の更なる発展を祈念し、私の挨拶と致します。

Xin chan thanh cam on!

ありがとうございました。

(了)